

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	55% (令和5年度45.3%)	自校A B層の割合	60% (令和5年度54.1%)

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	●生徒エイジェンシー（Student Agency）を中心課題と捉え、「生徒自身が学び、生徒自らが発信する授業づくり」を推進 生徒自らが学ぶ方法を考え（個別最適な学び）、他者と協力して学びを深めて（協働的な学び）自らが発信する授業づくりに取り組みます。全教員が総授業の約1割の導入を試み、年1回以上の研究授業を行います。	●数学「単元別検定・総合検定」 江戸川区のプロジェクトチームが推進する検定を積極的に活用し、総合検定の合格者70%以上を目指します（令和5年度の合格者は48.5%）。 ●週末テストの実施 週末に基礎・基本的な10問程度のテストを実施します。国数英社理の5教科で実施し、合格ラインを80点以上に設定します。	●KGP（家庭学習プロジェクト）の実施・充実 すべての生徒がKGPノートを準備し、家庭学習に取り組みます。学習教科は生徒個々の主体性にまかせ、生徒が主体的に必要であると感じる学習内容を、一日2ページ、1時間以上を目安に取り組みさせます。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て		○合格できない生徒は放課後に残し、同一の問題を繰り返しテストします。粘り強く合格させます。 ○江戸川区「放課後補習教室」につながるように積極的に勧め、継続的に補習に取り組めるよう支援します。	○KGPにより提出されたノートを担任は欠かさず確認し、押印します。学期末に優秀者を表彰します。評価し、認め、継続的に励まします。 ○ノートの提出が滞る生徒に対しては、週末テストと同様に放課後残し、不足分の学習に取り組ませます。
成果指標	◎管理職が週案簿及び授業観察から「生徒自身が学び、生徒自らが発信する授業づくり」の進展具合を確認する。全教員の1/3が総授業の内の1割程度の導入を目指す。研究授業については100%を目指す。	◎全国学力・学習状況調査の活用 令和5年度 国語D層29.7%（R4 29%） 数学D層27.7%（R4 35%） 英語D層25.5% すべての教科において、D層を25%以下にする。	◎全国学力・学習状況調査の活用 令和5年度「一日に1時間以上学習している生徒の割合」が75.6%に伸長した（令和4年度は68.0%）。 一日1時間以上学習する生徒の割合を85%以上にする。